

鳥取市の市庁舎整備を巡る住民投票で、市が進めていた「新築移転案」を「耐震改修案」が上回ったのは昨年5月20日。住民投票の実施を求めた市民団体のメンバーらは同市内の事務所で何度もバンザイを繰り返し、中には涙を浮かべる人も。「おとなしい鳥取市民が市民運動で市政を動かした」と興奮に包まれていた▲視察に来た他県の市議が市民団体の運動を「まるで国政選挙並みだ」と驚いていたが、まさにそう。街宣車を走らせ、大量のチラシを配る。特に運動の盛り上がりは局所的とはいえ、国政選挙並みか、それ以上だと感じた▲そんな市民運動の盛り上がりや住民投票の結果は、竹内功市長にとっては今は昔か。約1年余が経過した7日の市議会で、住民投票で否定されたはずの“新築移転”の方針を改めて示した。1年前に示された多数派の民意と熱意が宙に浮いてしまったようで、戸惑っている。【加藤結花】